

北国の十一月末は、日の暮れるのも早く、どんよりした暗い日が続きます。ニチメン熊谷常務のお手紙で受賞内定を知りました。道行く人たちに「風姿」が溶け込み、明るい日差しに浮かぶのを見る思いでした。この一年半、毎日その前を通る人々の心の中に、ある日、「美しいな」と感じる喜びの気持ちが出たのだらうか。この石のモニュメント誕生にかかわった人々に喜んでいただけたと思うと、一層嬉しさが増しました。

大阪御堂筋淡路町、NIMプラザ御堂筋ビルの公開空地に設置された花崗岩の彫刻は、一体から成っています。一つは三八五cm(高さ)×一八五cm(幅)×一二六cm(奥行き)、もう一つは三八〇cm×一八〇cm×一二六cmで、重量はともに八トン。制作を始めるとき、三十トンずつの石でした。

カナダ・ケベック州ウエイズミルズ村の自宅から車で三十分の原石切り出し場(丁場)で二年前の四月、求める石を切り出そうとしたが、よい原石を得られず、断念。ほぼ同じ地質構造の米国バーモント州ウッドベリー村の丁場へ行き、切り出しました。

私の作品は手作業がほとんどですが、その前にダイヤモンド・ワイヤソーで荒取りをします。単体の巨石を不安定で難しい角度に置いて切る作業を、ベテランの職人さんたちすら怖気づいて、「この切り方は無理。危ない。だめ」と言う。「失敗しても、ぼくの責任だ。慎重に、時間をかけてやろう」と、何度繰り返したことか。

五月から手作業に入りました。朝五時半に自宅を出て、六時から夕方六時まで、石工の職人と私の二人。祭日も休まず手作業に励みました。最初の深く、大きな凹部に掛かつたときの苦しさ。二人とも疲れきって、一度、助手はかんしゃくを起こして道具を地面にたたき付けたこともありました。

一瞬の扱いのミスで、ある線や面は欠けてしまう。が、次の面に掛かる前に石を回転させる途中、一瞬現れるフォルムの美しさに驚く。次の面の手作業が始まり、ホツとする。そんな繰り返しでした。

昨年二月末に、御堂筋に無事、設置完了。その瞬間、一年の間、二体とも事故もなく出来上がり、ここまで運ばれてきたことをただ不思議と感じ、幸運に感謝しました。

彫刻が建物の一部になり切ってしまう。あるいは、建物に圧倒されてしまう。逆に彫刻が、あまりに強すぎる。いずれも私の願うところではありません。

建築家は群集、マスの動きをデザインの基にもってくる必要があるため、時にのめり込むこともあるようです。相当よい建物でも、時に何か物足りな

い感じがすることがあります。誰がそれを満たすのか。彫刻家がここに貢献できる一つの存在であると思います。

公開空き地が、美しい都市空間になるためには、建築家、ランドスケープ・アーキテクト、彫刻家、行政担当者が、それぞれの条件を出しながら融合すること、それが成功への道だと思っています。そこに社会的な上下関係を持ち込むと感性の違いが美を産み出すほうに作用せず、押しつぶす結果を産んでしまう。

私は「風姿」が建物と街を行く人々をつなぐ連繋符となることを願いました。このモニュメントが建物に調和するだけでなく、御堂筋の空間に溶け込み、人々の動きや時の経過とともに、悦ばしい空間を産み出す――それをお願いしました。だから、私の作品は設置されたら、それで完成というのではありません。これからやつと完成に向かって動きはじめます。大阪の春夏秋冬、絶えず変化する光、絶え間ない人の動きとともに新しい姿を現すのです。

四年間考え抜いてきた私の新しい言葉（ボキャブラリー）で表現したのが「風姿」です。NMプラザ御堂筋への制作コンセプトの基に、自由、光、風、エレガンス、人々、を置く。それらが作品と一体となって醸し出すものが私の狙いです。

ウエイズミルズの自然の中で彫刻制作に没頭する私は、何十年振りに一昨年二月、梅田から淡路町まで御堂筋を歩きました。街を行く人々のさまざまなきぶり、人や街の動き、足早に歩く女性のスカートに光や風のつくり出す一瞬残る美しい形。江戸時代から現代に至る上方文化の歴史を一筋に見られる御堂筋に立つと、思いは「ものごとの本質」、つまり「粹」の世界、生粋、精粹の世界に浸ります。

御堂筋をただ働く場と考えて道を急ぐ人が「風姿」を見たり、あるいは見なかったり、それを繰り返して、ある時、ふと美しいと思う。美しい音楽の一節に打たれたように。悦びに膨らんだ心が、すれ違う人について微笑む。その一瞬、御堂筋が、その人の住む街に変貌します。喜びの感情、「美しい」と思う一刻の心の豊かさがカナダの山里で制作する私の「思い出」「時間」「不滅（インモタリテイ）」につながります。大都会で現代社会を生きる人が、私の住むウエイズミルズの「時間」「柔らかさ」「優しさ」「悦び」を受け止めてくれるのです。

「風姿」はカナダの自然、すなわち、水と雪、氷と風の中で生まれました。大阪を築いた先達に悦ばしいと思っしてほしい、美しく力強い、静かな捧げものです。

（彫刻家 王立カナダ芸術院会員）